



Roi-ET Wittayalai School



東広島市立河内中学校

交流授業

学 年：第1学年

単元名：河内中学校の学校生活や行事を紹介しよう

(Lesson 5 School Life in the U.S.A NEW CROWN English Series 1)

ねらい：学校生活や行事について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある内容を伝えることができる。

身振りを加えながらコミュニケーションを図っている様子



写真を見せながら行事の紹介をしている様子



活動内容：

①自己紹介 (グループ)

両校の生徒が9つのブレイクアウトルームに分かれ、ビンゴゲームを取り入れた自己紹介を行った。相手校は一人に1台の端末を使用、本校はそれぞれのグループで1台の端末を共有し、交流をした。相手を変えながら3回の自己紹介を行ったため、回数を重ねるごとに、自信をもって生徒が英語を話す姿が見られるようになった。

②学校生活・行事紹介 (グループ)

両校の生徒が7つのブレイクアウトルームに分かれ、「①自己紹介」と同様の形態で交流を行った。学校生活についての紹介では、両校とも写真を提示しながら説明を行った。両校が交流日までにクラウド上にアップロードした写真を共有したことで、生徒はある程度内容をイメージしながら説明を聞くことができた。学校生活及び行事紹介が終わった後の質疑応答では、初めはうまく質問ができなかったが、徐々に簡単な語句や文を用いて質問したり、相手からの質問内容を理解しようと何度も聞き返したりする場面が見られた。会話を継続させようとする生徒の前向きな姿勢が印象的であった。

◀接続方法：Zoom▶

大切にしたこと

- 既習の簡単な語句を駆使しながら、対話をするよう指導し、生徒が自信をもって英語を話せるようにした。そのことにより、相手に伝わったときの達成感が得られるようにした。
- 小グループ編成にすることで、どの生徒も英語で話す機会を多くもてるようにした。
- 言語活動を繰り返し行い、伝えたい内容について、事実や自分の考えなどを簡単な語句や文を用いて話せるよう指導した。また、相手とのやり取りの際に使える、困ったときの「お助け表現集」をALTが用意し、授業で活用する中で、会話を継続できるようにした。

交流を終えて

生徒の声

- 相手国の生徒と比べると、英語を話す力がまだまだ不足していると感じた。相手の話を聞いて、その場に応じたリアクションや会話ができるようになりたい。
- 相手からの質問に答えたら、“Me, too.”と言って相づちを打ってくれた。また、体全体を使い、聞いている反応をしてくれたため、話しやすくて楽しかった。
- 1回目の交流授業では相手に伝わりづらくて何度もやり直したけれど、2回目の交流授業では伝わっていると感じた。自分の発音がよくなったからだと思うと嬉しかった。

先生の声

- 生徒は当初、英語でのコミュニケーションに苦手意識があったが、他国の同年代の生徒との2回の交流を通して、よい刺激を受けるとともにやり取りの楽しさを感じ、コミュニケーションを図ることや英語学習の意欲向上につながった。
- 2回目の交流の際、生徒一人一人が、自分の力でコミュニケーションを成立させようと意欲的に話したり、聞いたりする姿が印象的だった。今後も交流を継続し、学年段階に応じたテーマや交流形態を工夫することで、1対1でのコミュニケーションを図る力の育成を目指したい。